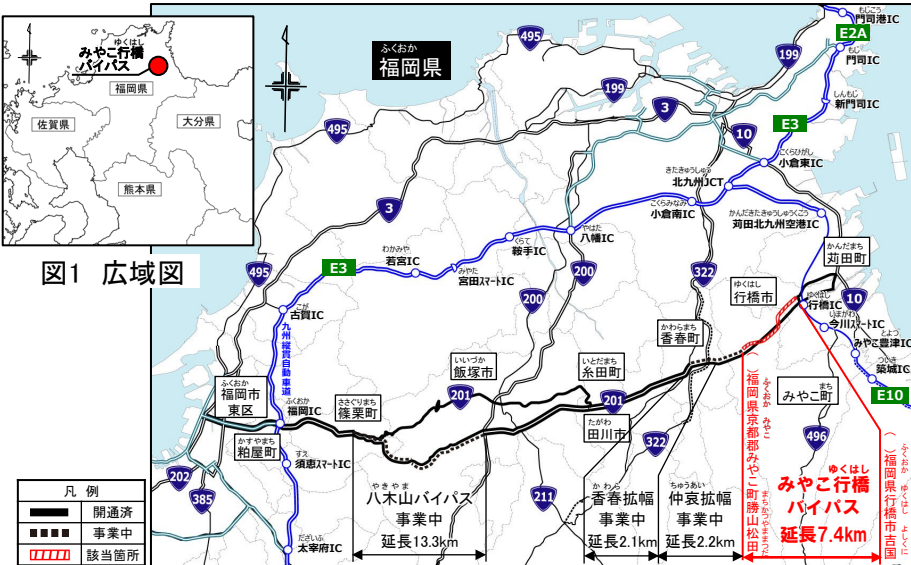


一般国道201号 みやこ行橋バイパスに係る新規事業採択時評価

1. 事業概要



2. 評価結果

費用便益分析	■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの)				
	B/C	(参考)※4	EIRR※1	総費用	総便益
	4%	1.5	1.5		691億円※2
	[2%]※3	2.2	2.3	470億円※2	(参考) 走行時間信頼性向上便益: 29億円 CO2排出削減便益: 0.53億円
	[1%]※3	2.8	2.9		

※1: EIRR: 経済的內部収益率
※2: 基準年(令和6年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)
※3: 比較のために参考とすべき値として設定した社会的割引率
※4: 参考として多様な便益を算出

事業の影響	評価項目	評価	内容
	自動車や歩行者への影響	◎ 経済成長・物流強化	交通転換による交通渋滞の緩和 【課題】 ・国道201号で事業中区間を除いて、唯一の2車線区間である当該区間の現道に約2万台/日を上回る交通が集中。 ・主要渋滞箇所をはじめ、朝・夕ピーク時を中心に渋滞が発生。(写真1、図3) 【効果】 ・みやこ行橋バイパスへの交通転換により、現道の交通混雑が緩和 ○対象区間の平均旅行速度【現況】34km/h → 【整備後】60km/h 資料:【現況】R3全国道路・街路交通情勢調査混雑時旅行速度、【整備後】みやこ行橋バイパス区間を60km/hで算出 ○国道201号現道の混雑度【現況】1.37 → 【整備後】0.59 資料:【現況】R3全国道路・街路交通情勢調査、【整備後】将来交通量推計結果(R22)より算出
	事故対策(政策目標②)	◎	・交通混雑等の緩和により、交通事故が減少 【○国道201号現道の死傷事故件数【現況】30件/年 → 【整備後】8件/年(約7割減少)】
	歩行空間	◎	・歩道・自転車道整備により、安全性の高い交通環境を形成
	社会全体への影響	◎ 地域安全保障のエッセンシャルネットワーク	速達性の向上による救急医療活動の支援 【課題】 ・みやこ町勝山地区の第二次救急医療施設10分圏人口カバー率は3割と、周辺市町に比べ低い水準。(図4) 【効果】(参考:貨幣換算)・速達性向上による救急医療施設へのアクセス向上効果:約53億円 ・第二次救急医療施設の10分圏人口が増加 ○みやこ町勝山地区の10分圏人口カバー率【現況】32% → 【整備後】43% (11%増加) 資料:【現況】R3全国道路・街路交通情勢調査混雑時旅行速度、【整備後】みやこ行橋バイパス区間を60km/hで算出
	地域経済(政策目標③)	◎ 経済成長・物流強化	物流活動における速達性・定時性の確保 【課題】 ・苅田港の移出貨物量は、セメントが全国1位、完成自動車は九州3位。セメントや自動車関連企業は国道201号沿道に集積しており、製品や部品等を苅田港から全国へ輸送。(図5、6) ・対象区間は2車線であるため、交通が集中するピーク時には所要時間に差が生じるなど、定時性が確保出来ておらず、物流活動に支障。(図7) 【効果】(参考:貨幣換算)・アクセス性向上による販路・取引先拡大・生産性の向上効果:約270億円 ・アクセス性向上による新たな雇用創出効果:約10億円 ・所要時間短縮による物流の効率化、産業活動の活性化 ○香春町セメント工場~苅田港の所要時間【現況】43分 → 【整備後】36分 (約7分短縮) 資料:【現況】R3全国道路・街路交通情勢調査混雑時旅行速度、【整備後】みやこ行橋バイパス区間を60km/hで算出
	災害	◎	・国道201号現道が浸水途絶した場合にも緊急輸送道路として機能 【○国道201号現道の浸水区域の通過延長【整備前】1.7km→【整備後】0km】
	環境	○	・環境(CO2排出量)の改善【CO2排出削減便益: 0.53億円】
	地域社会	○	・大型車等の通過交通の転換により地域の交通環境の改善や輸送効率が向上 ・観光資源および中核都市である行橋市など近隣市町村へのアクセス性が向上 (参考:貨幣換算)・アクセス性向上による観光産業活性化効果:約7億円

一般国道201号 みやこ行橋バイパスに係る新規事業採択時評価

